

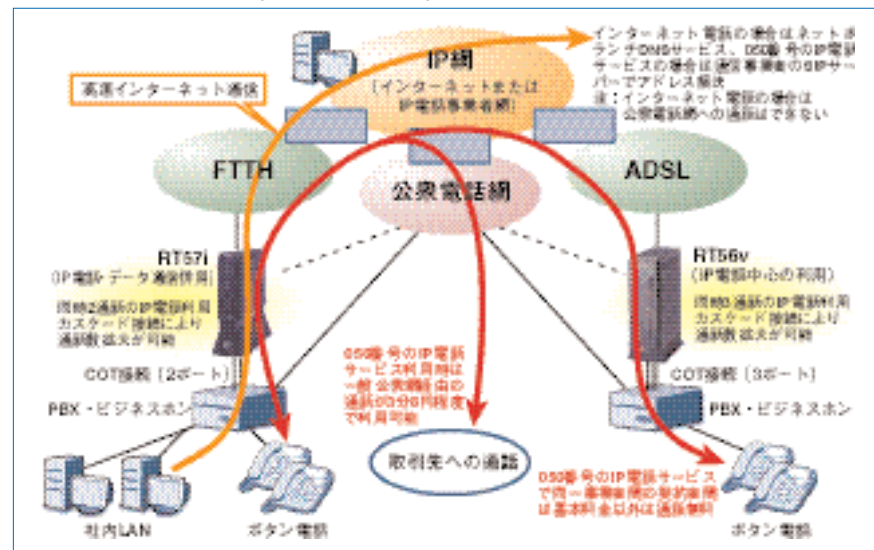
ヤマハVoIPルーターによるIP電話提案を電話設備業者とともに進める

ヤマハネットワーク製品の販売元として、VoIPルーターの販売・サポートを担当するSSE エスシー・コムテクス・カンパニーは、従来の販路に加え電話設備業者を新たなターゲットに捉え、ヤマハVoIPルーターによるIP電話提案を推進する。

住商エレクトロニクス(SSE)の社内カンパニー、エスシー・コムテクス・カンパニーは、住商エレクトロニクスとエスシー・コムテクスの合併に伴うカンパニー制導入により、2003年2月に新しく発足した。ヤマハのルーター製品は市場では、企業ユースの信頼性を持つコストパフォーマンスに優れたアクセスルーターとして高い評価を得ているが、ヤマハがISDNルーター市場参入を果たした95年から住友商事で販売・サポートを行ってきた。その後、エスシー・コムテクス株式会社を経て、現在はエスシー・コムテクス・カンパニーでその業務を引き継ぎ、積極的な展開を図っている。

ヤマハとの一体的な関係をネットワークソリューション第1事業部ブロードバンドルーター部の新庄崇部長

図1 ネットワーク構成例(RT56v/RT57i)



は、「当社は、単なる販売・サポートだけでなく、マーケティングも担当し、常にユーザーニーズをヤマハにフィードバックし、製品開発に生かしてきた。このような密接な協調関係を8年もの長い間継続するケースは業界でも稀な例ではないか」と語る。こうした密接な連携により、ヤマハのルーター製品はISDNルーターからブロードバンドルーターへとラインナップを広げるとともに、市場に好評を持って受け入れられ、今や国内でトップメーカーの1つに数えられる実績を得ている。

SIPの先駆者を意識した事業展開

この両社が2003年度後半のキーワードとして掲げるのは「VoIP」だ。

ヤマハはVoIPには早くから取り組んでおり、2001年12月にブロード

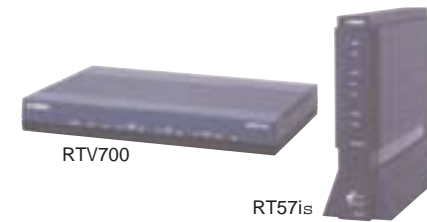


エスシー・コムテクス・カンパニー ネットワークソリューション第1事業部 ブロードバンドルーター部 新庄 崇部長

バンド & ISDN 無線ルーター「RT60w」でVoIP機能対応ファームウェアを公開。2002年7月にはブロードバンドVoIPルーター「RT56v」を市場投入している。

これらの製品の最大のセールスポイントは、最初からSIPプロトコルをターゲットにしてきたことだ。新庄部長は、「昨秋からSIPがデファクトスタンダードになる流れが出てきたが、ヤマハはその1年以上も前からSIPを将来の中心プロトコルと位置付け、市場での先駆者的な役割を果たそうという強い意志を持って事業を展開してきた」と語る。

その1つの現れがRT56vの市場投入に併せて開始した無料の「ネットボランチDNSサービス」だ。まだキャリア・ISPのIP電話サービスが立ち上がっていない時期に、ユーザーにIP電話を啓蒙する目的で開始したもので、固定IPアドレスの付与がないISPサービスでも内線通話を可能にするため、ヤマハがDNSサーバーを運営し、そこでIPアドレスを取得できるようにした。



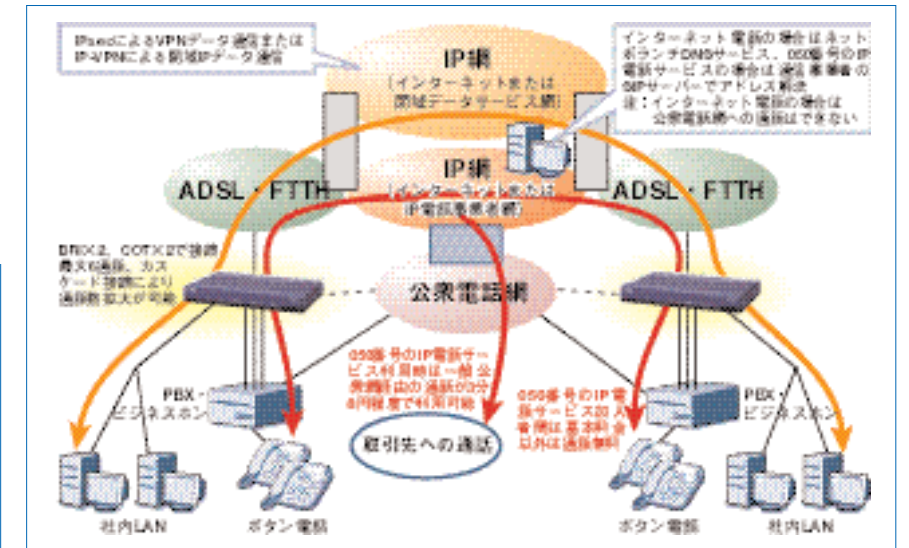
既存設備を活用できる新製品

このように、「草の根からのVoIP」ともいべき啓蒙活動を展開してきたヤマハとSSEは、次に年末から急速に動き始めたキャリア・ISPのIP電話サービスに対応すべく、従来製品を大幅にグレードアップする新製品の開発に取り組んだ。

メインターゲットは、中小企業およびSOHOに置き、SSEの市場リサーチをもとに検討に入った。そこで浮き彫りになったのが、「中小企業やSOHOはPBXやビジネスホンをリースで導入しているケースがほとんどで、リース期間満了というタイミングでない限り、既存の仕組みを簡単には変えられない」ということだった。しかし一方で、安価なIP電話サービスが始まるなら利用したいというニーズがとて強いことも分かった。

そうしたニーズに対応するため生まれたのが、7月末に発売するブロードバンドVoIPルーター「RT57i」と9月中旬に発売するブロードバンドVoIPゲートウェイ「RTV700」の2機種で、ともに既存のPBXやビジネスホン主装置に接続してIP電話サービスが利用するのが特徴だ。また、キャリア・ISPサービスへの対応を睨み、エコー・キャンセラーや優先制御機能を搭載することで音声品質維持機能を強化している。両機種ともカスケード接続を可能としており、通話数の拡大が図れる点も強み

図2 ネットワーク構成例(RTV700)



になっている。

他方で、VoIPゲートウェイとしてだけでは、いくら機能を強化しても競合他社との差別化は図りにくい面もある。そこで、ヤマハの「NetVolanteシリーズ」で実績のあるルーター機能を継承しつつ、FTTH対応を想定し最大100Mbpsの高スループットを実現し、音声・データ統合ソリューションを1台で実現できる新しいコンセプトとした。

新製品を呼び水にビジネス拡大を

ここで大事なことがある。SSEでは両製品を従来のヤマハルーター販売網に加え、電話設備業者もメインルートとして販売していく方針で、そのためのサポート体制を幅広く整えていることだ。まず、従来から行っているネットワークの設計、構築から24時間365日保守等を全国規模でトータルに提供するネットワークサポートサービス「CarePlus」を両製品

にも適用し、工事業者に対する万全のサポート体制を敷く。一方でネットワーク工事をすべて自社で行いたいというニーズも多いため、定期的に技術セミナーや機器設定手法の講習会を開催し、電話設備業者のスキルアップも図っていく。

新庄部長は、「ヤマハVoIPルーターによるIP電話の提案をきっかけに電話設備業者の方々の商売を広げたい」と語る。新製品のターゲットである中小企業やSOHOの窓口は、従来から電話設備業者が接してきた総務部だ。そこにRT57i/RTV700を用いたIP電話という新しい切り口の提案を行い、通話コスト削減メリットが明示できれば、単にVoIPルーターの導入だけでなく、PBXやビジネスホンのリプレースという、電話設備業者の主体ビジネスにもつなげていける。SSEではそのための教育、サポートを今後とも強力に推し進めていく方針だ。

お問い合わせ先

SSE エスシー・コムテクス・カンパニー ネットワークソリューション第1事業部 ブロードバンドルーター部 住商エレクトロニクス株式会社 TEL:03-5217-5830 E-mail:ip-phone-info@sc-comtex.co.jp URL:http://sc-comtex.sse.co.jp